



# 2019年度一般入試 B日程

## — 傾向と対策 —

### 国語総合

#### 出題のねらい

大学生として必要な読解力と文章力、すなわち、論理的文章を読んで内容や論の組み立てを理解できるか、また、それについての自分の考えを表現する力があるかを問うことを目的として出題しています。ある程度の長さの文章を読んで、文章全体の構成や主旨を正しく理解し、設定された問題に応じて自分の意見をまとめることを要求します。年度によって文学史や文法の知識に関して出題することもあります。

#### 出題形式・内容（分野）について

形式はこの数年変わっておらず、3000～3500字程度の文章とそれについての10前後の小設問で構成された大設問が1題というかたちで出題されています。出題範囲は現代文のみで論説文が多く、とくに文化論や社会学・心理学に関連した文章が多く出題されています。2019年度のB日程では加藤秀俊氏の『社会学』から出題しました。著者は日本を代表する社会学者です。書名は『社会学』と大きいのですが、その中から「コミュニケーション」について述べている文章を選びました。学校という場での教育についての部分は、みなさんにも共感できるのではないのでしょうか。キーワードが「 」でくくられており、しっかり拾ってあげれば理解しやすいと思います。基本的な漢字の読み、書き、語の補填の問題から内容を問う問題まで、12問を設定しました。まずは正確に文章を読みとっているかを把握することをねらいとしています。漢字に関しては大学生として様々な文献を読みこなしていかなければならないと考え、高校までの学習範囲に限らず、一般的なものをも含めて出題しています。また、論理の展開を踏まえてきちんと内容を押さえていることを確認するための設問を多くしてあります。問12はこの文章のテーマの一つでもある「ことばによるコミュニケーション」についての出題です。あなた自身が大切にしていることを「日常生活での具体例を挙げながら」150字程度でまとめるという問題です。まずは本文がどう述べているかをしっかりと押さえたうえで、どう答えるかを考えてください。そうするとどのような「具体例」を挙げればいいのかも分かると思います。解答を読んだ時に、それが独立した文章としてきちんと整っていることも評価しました。わずか150字の中に「大切」を何度も繰り返す解答が見られましたが、読み直すことで防げるでしょう。採点はすべて手作業で行っています。

#### 採点後の感想・効果的な学習方法

「出題のねらい」にも書いたとおり、大学生として要求される基本的な読解と表現の力を問う出題ですので、普段からいろいろな文章を読み、考え、書く習慣をつけておくことが大切であると考えます。同時に設問の要求することを正確に読みとり、それに応えていくことも必要です。たとえば「抜き出し」なのか、自分の言葉で「まとめ」なのか、何字で書くことを要求されているのか、といった「きかれたことにきちんと答える」という姿勢がもっとも大切です。繰り返し出てくる表現もキーワードとしてしっかり押さえましょう。また、キーワードや字数の指定は「抜き出し」たり「まとめ」たりするための大きなヒントになります。